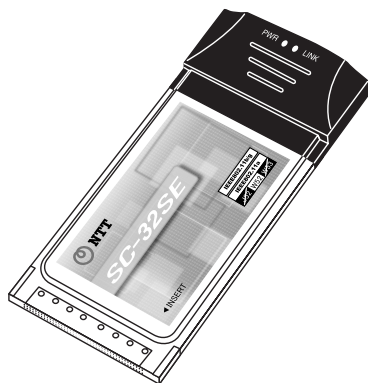




SC-32SE 取扱説明書

このたびは、SC-32SE をご利用いただきまして、まことにありがとうございます。

- ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本商品のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。



技術基準適合認証品

本商品のご使用にあたって

電波に関するご注意

本商品を IEEE802.11a(W52) モードで使用する場合は、電波法により屋外での使用が禁止されています。

屋外で使用する場合は、IEEE802.11a(W52) を無効にして、IEEE802.11g または IEEE802.11b モードでお使いください。 (👉 p.52)

本商品の IEEE802.11a(W52) モードは、「36ch、40ch、44ch、48ch」(W52)に対応しています。

「34ch、38ch、42ch、46ch」(J52)および「52ch、56ch、60ch、64ch」(W53)では接続できません。

本商品を IEEE802.11g または IEEE802.11b モードで使用する場合は、使用周波数帯に 2.4GHz 帯を使用します。

この 2.4GHz 帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されています。

1. 本商品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されている場合は電波干渉が発生する恐れがあります。
2. 万一、本商品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本商品の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または本商品の運用を停止(電波の発射を停止)してください。使用チャンネルの変更方法は、ご利用の無線アクセスポイント等の取扱説明書をご参照ください。

- 本商品は、日本国内でのみ使用できます。
- 次の場所では、電波が反射して通信できない場合があります。
 - ・強い磁界、静電気、電波障害が発生するところ(電子レンジ付近など)
 - ・金属製の壁(金属補強材が中に埋め込まれているコンクリートの壁も含む)の部屋
 - ・異なる階の部屋同士
- 本商品と同じ無線周波数帯の無線機器が、本商品の通信可能エリアに存在する場合、転送速度の低下や通信エラーが生じ、正常に通信できない可能性があります。
- 本商品をコードレス電話機やテレビ、ラジオなどをお使いになっている近くで使用する
と影響を与える場合があります。
- 本商品は、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられる
ことがあります。
 - ・本商品を分解／改造すること

本商品に表示した 2.4 DS/OF 4 は、次の内容を示します。

2.4	使用周波数帯域	2.4GHz 帯
DS/OF	変調方式	DS-SS 方式および OFDM 方式
4	想定干渉距離	40m以下
 	周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域 を回避可能であること

無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です！

無線 LAN は LAN ケーブルの代わりに電波を利用して、パソコンと無線アクセスポイント間などで通信するため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続できるという利点があります。その反面、電波が届く範囲であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティ関係の設定を行わないと、以下のような問題が発生する可能性があります。

通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ユーザ名（ID）やパスワード
- クレジットカード番号などの個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為を行う可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントには、これらの問題に対応するためのセキュリティ（防護策）が用意されています。無線 LAN 製品のセキュリティ設定を有効にし、製品を使用することで、これらの問題が発生する可能性は少なくなります。

無線 LAN セキュリティ

無線 LAN 製品は、出荷時の状態においては、セキュリティ設定が有効に設定されていない場合があります。

問題発生の可能性を少なくするために、無線 LAN 製品をご使用になる前に必ず無線 LAN 製品のセキュリティに関するすべての設定を取扱説明書にしたがい設定してください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティが破られることもあり得ますので、ご理解のうえご使用ください。

セキュリティ設定についてお客様で対処できない場合は、お問い合わせ窓口（ p. 86）までお問い合わせください。

お客様がセキュリティ設定を有効にしないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティ設定を有効にしてご使用ください。

ご使用にあたってのお願い

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置品をラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。

- ご使用の際は本書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本商品（本書、ソフトウェアを含む）は日本国内向け仕様であり、外国の規格等には準拠していません。また海外で保守サービスおよび技術サービスは行っておりません。国内で使用する場合でも、日本語環境によるご利用のみのサービスとなっております。
This product is designed for only use in Japan and we are not offering maintenance service and technical service of this product in any foreign country. It works properly in only Japanese Operating System.
- 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害や、万一本商品に登録された情報内容が消失してしまうこと等の純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。本商品に登録された情報内容は、別にメモをとるなどして保管くださるようお願いいたします。
- 本商品を分解したり改造したりすることは絶対に行わないでください。
- 本書に、他社商品の記載がある場合、これは参考を目的としたものであり、記載商品の使用を強制するものではありません。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申し付けください。
- 本書、ハードウェア、ソフトウェア、および外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。
- 本商品に搭載されているソフトウェア等の解析（逆コンパイル、逆アセンブル、リバースエンジニアリング等）、コピー、転売、改造を行うことを禁止します。

- Microsoft®、Windows®は、米国 Microsoft® Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows®の正式名称は、Microsoft® Windows® operating System です。
- Windows® XP は、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system の略です。
- Windows® 2000 は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略です。
- ®マークおよび™表記については本文中に明記しません。

安全にお使いいただくために

本書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所でお求めください。

本書中のマーク説明

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招いたりする内容を示しています。
 お知らせ	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。

お使いになる前に（使用環境）



警告

- 本商品を以下の場所で使用しないでください。火災の原因となることがあります。
 - ・ 直射日光が当たる場所
 - ・ 温度が異常に高い場所
 - ・ 発熱器の近く（ストーブ、ヒータ等）
 - ・ 油飛びや湯気が当たるような場所（調理台等）
 - ・ 有毒ガスが発生する場所
- 本商品を以下の場所で使用しないでください。また、本商品を水に濡らさないでください。感電の原因となることがあります。
 - ・ ほこりの多い場所
 - ・ 鉄粉が発生する場所
 - ・ 水の入った容器の近く（花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品等）
 - ・ 湿度の高い場所（風呂場、加湿器の近く等）
 - ・ 水のかかる場所

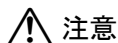


- 万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに本商品を装着している機器の電源コードを電源コンセントから引き抜いて、煙が出なくなるのを確認して、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
- 以下の事態が発生した場合は、すぐに本商品を装着している機器の電源コードを電源コンセントから引き抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
 - ・本商品を落とした
 - ・本商品が破損した
 - ・本商品内部へ水が入った
 - ・本商品を濡らした
 - ・本商品から異常音が発生した
 - ・本商品が異常に熱くなっている
- 濡れた手で本商品を操作したり、接続したりしないでください。感電の原因となることがあります。

その他



- 本商品を分解・改造しないでください。火災、感電、故障の原因となります。また、本商品を分解・改造された場合は保証対象外とします。
- 本商品に水が入ったりしないよう、また濡らさないようにご注意ください。漏電して、火災・感電の原因となります。
- 航空機内や病院など、使用を禁止された区域では本商品を使用しないでください。電子機器や医用機器に影響を与え、事故の原因となります。



- 本商品は以下の条件で使用してください。以下の条件を満たさない場合は、故障の原因となります。

- ・ 温度0℃～40℃
- ・ 湿度5%～85%（結露しないこと）

結露とは、空気中の水蒸気が金属板の表面等に付着し、水滴となる現象です。本商品を寒い場所から急に暖かい場所に移動させたようなときには、本体内部に結露が発生し、故障の原因となります。万一結露した場合は、起動しない状態で放置しておき、完全に乾燥してからパソコンに装着してください。

- 製氷倉庫など特に温度が下がるところで使用しないでください。本商品が正常に動作しないことがあります。

- 以下の場所では、本商品を使用しないでください。本商品が正常に動作しない原因となります。

- ・ 温度が下がる場所（製氷倉庫）
- ・ 磁気を帯びている場所（電気製品、AV、OA機器等の近く）
- ・ 電磁波が発生している場所

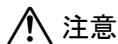
※ 磁気や電気雑音の影響を受けると、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。

※ テレビ、ラジオなどに近いと、受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れたりすることがあります。

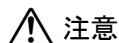
※ 放送局や無線局などが近く、通信エラーが多い場合は、本商品の使用場所を移動してください。

- 硫化水素が発生する場所（温泉地）などでは、本商品の寿命が短くなることがあります。

お使いのとき



- 本書に従って接続してください。間違えると接続機器や本商品が故障することがあります。



注意

- 長期間ご使用にならないときは、安全のために必ず、本商品をパソコンから抜いてください。
- お手入れをするときは、安全のために必ず、本商品をパソコンから抜いてください。

日頃のお手入れ



お願い

- ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。本商品の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れを拭き取り、柔らかい布でからぶきしてください。
- 落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。故障の原因となることがあります。
- 本商品に殺虫剤等の揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール、粘着テープ等を長時間接触させないでください。変形、変色の原因になることがあります。

マニュアルの読み進めかた

本商品の導入手順

本商品は次の手順で導入してください。

使用前に注意事項を確認しましょう

- 「本商品のご使用にあたって」(👉 p. 1)

付属品を確認しましょう

- 「1 お使いになる前に」(👉 p. 15)

本商品を準備しましょう

- 「2 SC-32SEユーティリティのインストール」(👉 p. 18)

インフラストラクチャモードで使う

インターネットへ接続しましょう

- 「3 インフラストラクチャモードで使う」(👉 p. 26)

アドホックモードで使う

アドホックネットワークへ接続しましょう

- 「4 アドホックモードで使う」(👉 p. 38)

セキュリティを強化しましょう

- 「5 セキュリティ等の設定について」(👉 p. 43)



お知らせ

本書では、本商品を装着した当社指定の無線対応機器を「無線アクセスポイント」と表記しています。



お知らせ

無線 LAN 内蔵のパソコンや、すでに無線 LAN カードがインストールされているパソコンに対して本商品をインストールした場合、無線 LAN 機能が正しく動作しなくなる場合があります。この場合の動作については保証いたしませんのでご注意ください。

本商品に付属の CD-ROM について

付属の「SC-32SE 専用 CD-ROM」には下記内容のソフトウェアやファイルが収録されています。ご使用の際には、「Readme.txt」をよくお読みください。

- ・本商品（無線 LAN カード）の無線 LAN のセキュリティ設定や状態表示を行う「SC-32SE Utility」
- ・本商品（無線 LAN カード）用のドライバー式

CD-ROM の使いかた

本商品に付属の「SC-32SE 専用 CD-ROM」をパソコンにセットすると、[SC-32SE Utility セットアップへようこそ]画面が自動的に表示されます。画面の指示に従って、「SC-32SE Utility」をインストールしてください。インストール方法の詳細は、「2 SC-32SEユーティリティのインストール」(p. 18)をご参照ください。



お知らせ

画面が表示されない場合は、[スタート]ボタン→[マイコンピュータ]をクリック (Windows 2000 の場合は、デスクトップにある[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリック) して、[SC-32SE]アイコンをダブルクリックしてください。それでも画面が表示されない場合は、CD-ROM 内のファイルが表示されますので、[setup.exe]アイコンをダブルクリックしてください。

目 次

本商品のご使用にあたって	1
電波に関するご注意	1
無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意	3
ご使用にあたってのお願い	4
安全にお使いいただくために	5
マニュアルの読み進めかた	9
本商品の導入手順	9
本商品に付属の CD-ROM について	10
CD-ROM の使いかた	11
目 次	12
1 お使いになる前に	15
1-1 セットをご確認ください	15
1-2 各部の名前とはたらき	16
1-2-1 ランプの表示と本商品の状態	16
1-3 あらかじめご確認ください	17
1-3-1 本商品の概要	17
1-3-2 本商品の動作条件	17
2 SC-32SEユーティリティのインストール	18
2-1 インストールの流れ	18
2-1-1 本商品で無線 LAN 接続する場合	19
2-2 インストール	20
2-3 インストール完了の確認	23

3	インフラストラクチャモードで使う	26
3-1	インフラストラクチャ設定の流れ	26
3-2	インターネットへの接続例	27
3-3	無線アクセスポイントへの無線接続	28
3-3-1	無線アクセスポイントの検索	31
3-4	インターネット接続	34
3-4-1	インターネットへの接続	34
4	アドホックモードで使う	38
4-1	アドホック設定の流れ	38
4-2	アドホックネットワークの接続例	39
4-3	アドホックネットワークへの無線接続	40
5	セキュリティ等の設定について	43
5-1	セキュリティ等の設定の流れ	43
5-2	「SC-32SE Utility」の起動方法	44
5-3	設定の編集	45
5-3-1	編集画面の呼び出し	45
5-3-2	設定名およびSSIDの編集	46
5-3-3	暗号化の編集	47
5-3-4	その他の編集	52
5-4	設定の新規作成	54
5-5	設定の切り替え	55
5-6	設定の削除	56
6	本商品の取り外し	57
6-1	本商品取り外しの流れ	57
6-2	電源を切断して取り外す	57
6-3	電源を入れたまま取り外す	58
7	アンインストール	59

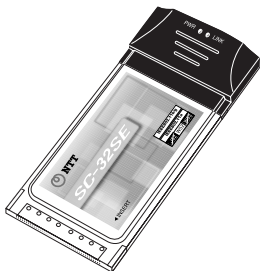
8	トラブルシューティング	61
8-1	インストール時の疑問	61
8-2	動作がおかしい	62
8-3	使用時の疑問	65
9	付録	66
9-1	SC-32SE Utility の詳細設定	66
9-1-1	ショートカットメニュー	66
9-1-2	動作メニュー	67
9-1-3	オプションメニュー	68
9-1-4	バージョン情報メニュー	69
9-1-5	[機器情報]タブ	70
9-1-6	[設定管理]タブ	74
9-1-7	[グラフ表示]タブ	75
9-1-8	[統計情報]タブ	76
9-2	用語集	80
9-3	仕様一覧	85
9-4	お問い合わせ窓口	86
9-5	設定内容記入シート	87

1 お使いになる前に

1-1 セットをご確認ください

本商品には、本体および付属品が同梱されています。ご使用前に不足品がないかご確認ください。

万一、セットに足りないものがあったり、本書に乱丁・落丁があったりした場合などは、お問い合わせ窓口（☞ p. 86）までご連絡ください。



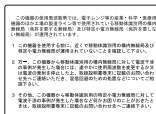
SC-32SE
本体 1枚



SC-32SE専用
CD-ROM 1枚



取扱説明書 1冊（本書）



無線注意ラベル 1枚

1-2 各部の名前とはたらき



名前（色）	機能説明
①CardBus コネクタ	CardBus 対応のパソコンの PC カードスロット、または当社指定の無線対応機器の無線 LAN カードスロットに装着します。
②PWR ランプ（緑）	本商品への給電状態を表示します。
③LINK ランプ（緑）	無線通信の状態を表示します。

1-2-1 ランプの表示と本商品の状態

インフラストラクチャモードでご使用の場合

状態		PWR ランプ	LINK ランプ
接続先の検索中		交互の点滅	
接続確立時		遅い点滅	遅い点滅
接続中 （データの送受信を行っていないとき）	Windows XP	遅い点滅	遅い点滅
	Windows 2000	遅い点滅	消灯（※）
接続中（データの送受信時）		速い点滅	速い点滅
無線 LAN 無効時		遅い点滅	消灯

（※）本商品と無線アクセスポイントの接続処理のため、一時的に LINK ランプが「遅い点滅」の状態になる場合があります。

アドホックモードでご使用時の場合

状態		PWR ランプ	LINK ランプ
接続先の検索中		交互の点滅	
接続確立時		遅い点滅	遅い点滅
接続中（データの送受信を行っていないとき）		遅い点滅	遅い点滅
接続中（データの送受信時）		速い点滅	速い点滅
無線 LAN 無効時		遅い点滅	消灯



お知らせ

本商品は、当社指定の無線対応機器の無線 LAN カードスロットへ装着することで、無線 LAN 機能を利用することができます。

- ・1台のパソコンに対して使用するネットワークデバイスは、1つだけにしてください。
下記のような組み合わせで使用しないでください。
 - ・本商品を複数同時に使用する
 - ・本商品と他の無線 LAN カードを使用する
 - ・本商品と他のネットワークデバイス（LAN カード、LAN ボード）を同時使用する
 - ・本商品とパソコンに内蔵の無線 LAN 機能などを同時に使用する
- ・本商品と無線アクセスポイントの無線 LAN 設定に LAN ケーブルを使用する場合は、設定後に LAN ケーブルを外してください。
- ・CardBus コネクタに手を触れないでください。故障の原因となります。
- ・IEEE802.11a(W52)の通信と IEEE802.11b/g 通信は、切り替えて使用します。混在しての使用はできません。

1-3 あらかじめご確認ください

1-3-1 本商品の概要

本商品は IEEE802.11a(W52)/g/b に準拠した無線 LAN を利用することができません。

また米アセロス・コミュニケーションズ社が開発した、無線 LAN の実行スループットを高速化する技術「Super AG」に対応しています。

1-3-2 本商品の動作条件

対応パソコン	CardBus 対応の PC カードスロットおよび CD-ROM ドライブをもった DOS/V パソコン ※本商品は Macintosh には対応しておりません。 ※5V 仕様の PC カードスロットには対応しておりません。
対応 OS	Windows XP (SP1、SP2) / 2000 (SP4)

2 SC-32SEユーティリティのインストール

ここでは、本商品を使用するために必要なドライバおよびソフトウェアをインストールする方法を説明します。



お願い

指示があるまでは本商品をパソコンのPCカードスロットへ挿入しないでください。



お知らせ

本商品のドライバおよびソフトウェアのインストール後に、無線アクセスポイントへの接続およびセキュリティの設定を行ってください。

無線アクセスポイントへの接続方法は、「3 インフラストラクチャモードで使う」(☞ p. 26) をご参照ください。

セキュリティ等の設定方法は、「5 セキュリティ等の設定について」(☞ p. 43) をご参照ください。

2-1 インストールの流れ

本商品のインストールは、次の手順で行ってください。

「SC-32SE専用CD-ROM」からインストールを行う

●インストール(☞ p.20)



正しくインストールできているか確認する

●インストール完了の確認(☞ p.23)

2-1-1 本商品で無線 LAN 接続する場合

本商品をパソコンに接続するときは、①インストール→②無線 LAN の設定の順で設定を行います。

本商品を接続できるのは Windows XP/2000 のみです。Macintosh ではご利用になれません。本商品は CardBus 準拠の PC カードスロットがあるパソコンに取り付けることができます。



お願い

- ・ 本商品はパソコンからの給電のみで動作しますが、パソコンによっては、サスペンド機能等により給電が停止した場合、通信を行う前にカードを差し直す必要がある場合があります。あらかじめサスペンド機能を無効にしてご使用いただくことをお勧めします。
- ・ 本商品をお使いになるパソコンに無線 LAN 機能が内蔵されている場合、インストールの前に内蔵無線 LAN 機能を無効にしてください。内蔵無線 LAN 機能を無効にする方法については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。
- ・ 「SC-32SE Utility」をインストールする前に誤って、本商品をパソコンに挿入して、ハードウェアウィザードが起動した場合は、**キャンセル** をクリックしてください。

2-2 インストール

本商品をパソコンで使用するには、「ドライバ」と「ユーティリティ」と呼ばれるソフトウェアをパソコンにインストールする必要があります。インストール方法は、本商品に付属の「SC-32SE 専用 CD-ROM」をパソコンにセットして行います。「SC-32SE 専用 CD-ROM」では、「ドライバ」および「ユーティリティ」を同時にインストールします。ここでは、設定用パソコンの OS が Windows XP である場合の設定方法を説明します。Windows 2000 で設定する場合は、「Windows 2000 の場合」もご参照ください。



お知らせ

ドライバとは、本商品をパソコン上で正しく動作させるためのソフトウェアです。ユーティリティとは、SSID または暗号化等の無線通信の設定を行うソフトウェアのことです。本商品のユーティリティの名称は、「SC-32SE Utility」です。



お願い

- ・ Windows の「管理者」(Windows 2000 では「Administrator」)の権限を持つユーザー名でログインしてください。
- ・ インストール完了後にパソコンを再起動するため、起動中のソフトウェアがある場合は、データ等を保存してから、そのソフトウェアを終了させてください。
- ・ インストール時に本商品以外の無線ユーティリティが起動している場合は、その無線ユーティリティを終了させてください。
- ・ 本商品をお使いになるパソコンに Bluetooth 機能等、本商品と同じ周波数帯を使用する機能が内蔵されている場合、パソコンの Bluetooth 機能を無効にするか、本商品で使用する無線動作モードを「5GHz 54Mbps (IEEE802.11a (W52))」に設定してください。接続する無線 LAN 機器の設定も IEEE802.11a (W52) に合わせてください。設定方法は「5-3-4 その他の編集」(p. 52)をご参照ください。
- ・ 以下の機器がパソコンにインストールされていると、正しくインストールできない場合があります。その場合は、以下の機器をアンインストールしてから、インストールを実行してください。
 - 本商品以外の無線 LAN カード
 - 本商品以外の無線 LAN カードのユーティリティ

1 「SC-32SE専用 CD-ROM」をパソコンにセットします。

[SC-32SE Utility セットアップへようこそ]画面が表示されます。



お知らせ

画面が表示されない場合は、[スタート]ボタン→[マイコンピュータ]をクリック (Windows 2000の場合は、デスクトップにある[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリック) して、[SC-32SE]アイコンをダブルクリックしてください。それでも画面が表示されない場合は、CD-ROM内のファイルが表示されますので、[setup.exe]アイコンをダブルクリックしてください。

2 次へ をクリックします。



[セットアップ方法]画面が表示されます。

3 次へ をクリックします。



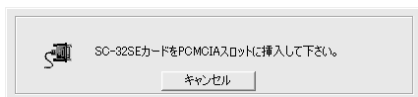
ドライバのインストール経過画面の表示後、「SC-32SE カードを PCMCIA スロットに挿入して下さい。」とメッセージが表示されます。



お知らせ

インストール先およびプログラムフォルダ名を変更したい場合は、[カスタム]を選択してください。

4 画面内容をご確認のうえ、無線 LAN カード(SC-32SE)をパソコンへ装着します。



しばらくすると、[InstallShield Wizardの完了]画面が表示されます。



お願い

装着後に[キャンセル]ボタンはクリックしないでください。クリックすると、パソコンの動作が不安定になる恐れがあります。クリックした場合は、最初からインストールをやり直してください。

5 完了 をクリックします。



パソコンが自動的に再起動します。以上でインストールは完了です。



お知らせ

新しいハードウェアの検索ウィザード開始画面が表示されることがあります。その場合、画面の指示に従って操作してください。

2-3 インストール完了の確認

ここでは、ドライバとユーティリティが正しくインストールされたかを確認する方法を説明します。ここでは、設定用パソコンの OS が Windows XP である場合の設定方法を説明します。Windows 2000 で確認する場合は、「Windows 2000 の場合」もご参照ください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、表示されるスタートメニューから[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、表示されるメニューから[管理]をクリックします。

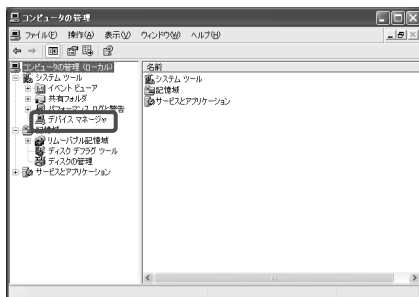


[コンピュータの管理]画面が表示されます。

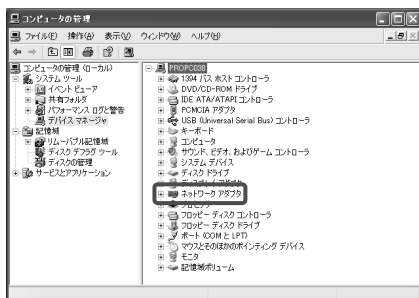
Windows 2000 の場合

デスクトップ上の[マイコンピュータ]アイコンを右クリックして、表示されるメニューから[管理]をクリックします。

2 [デバイスマネージャ]をクリックします。

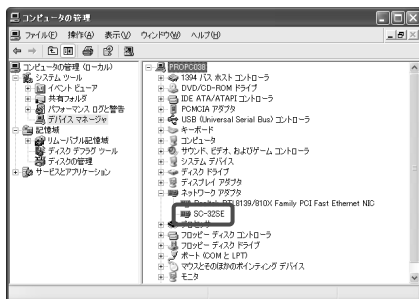


3 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。



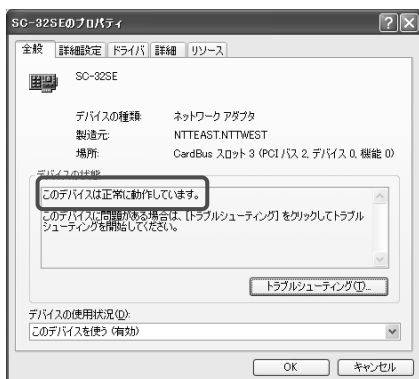
「ネットワークアダプタ」の下に「SC-32SE」が表示されます。

4 「SC-32SE」をダブルクリックします。



[SC-32SE のプロパティ] 画面が表示されます。

5 「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることを確認します。



表示されていない場合は、 **トラブルシューティング** をクリックして、画面の指示に従って対処してください。

以上で、インストールの確認は終了です。

3 インフラストラクチャモードで使う

本商品を実線アクセスポイントへ接続する方法を説明します。

3-1 インフラストラクチャ設定の流れ

無線アクセスポイントを接続する

無線アクセスポイントの取扱説明書をご参照ください

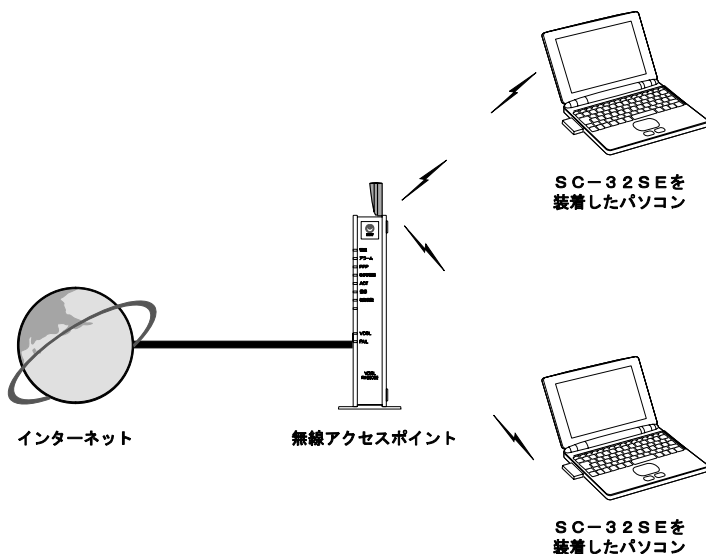


無線アクセスポイントへ接続する

●無線アクセスポイントへの無線接続 (👉 p. 28)

3-2 インターネットへの接続例

インターネットへの接続例は、下記のようになります。



3-3 無線アクセスポイントへの無線接続

「SC-32SE Utility」から無線アクセスポイントへ接続します。

- 1 タスクバーの通知領域にある  を右クリックします。

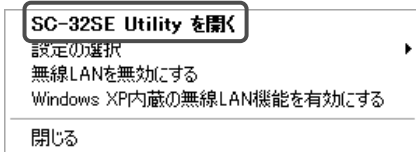
メニューが表示されます。



お知らせ

通知領域にアイコンがない場合は、[スタート]ボタン→[すべてのプログラム] (Windows 2000 では [プログラム]) → [SC-32SE Utility] → [SC-32SE Utility] の順にクリックしてください。通知領域に  が表示されます。

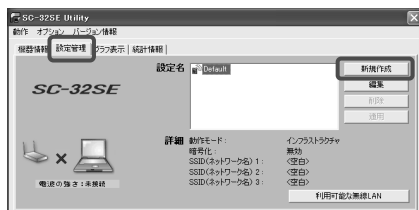
- 2 [SC-32SE Utility を開く] をクリックします。



[SC-32SE Utility]画面が表示されます。

- 3 [設定管理]タブをクリックします。

- 4 新規作成 をクリックします。



[設定の作成・編集]画面が表示されます。

5 「設定名」欄に使用目的や場所が分かるような名称を入力します。

6 「SSID1」欄に SSID(ネットワーク名)を入力します。



お知らせ

- ・SSIDには、32文字以内の半角英数字を入力してください。
- ・アルファベットの太文字・小文字は区別されますので、注意してください。

7 暗号化の設定を行います。

暗号化の設定方法は、「5 セキュリティ等の設定について」(👉 p. 43) をご参照ください。

8 **OK** をクリックします。

[SC-32SE Utility]画面が表示されます。

- 9 作成した設定が選択されていることを確認し、適用 をクリックします。



- 10 画面上で電波の強さが「未接続」となっていないことを確認します。

以上で無線アクセスポイントへの無線接続は完了です。



お知らせ

- 無線アクセスポイントで暗号化が設定されている場合は、本商品でも同じ暗号化を設定してください。暗号化の設定方法は、「5-3-3 暗号化の編集」(p. 47)をご参照ください。
- 無線 LAN のセキュリティ設定を行っていない場合は、第三者により通信の内容を盗み見られることや、お客様のパソコンに不正に侵入される可能性があります。無線アクセスポイントのセキュリティに関する設定をご確認のうえ、暗号化をご使用になることをお勧めします。
- 本商品は IEEE802.11a (W52)/g 準拠の無線区間を高速化する技術 (Super AG) に対応しています。本商品は無線アクセスポイントが Super AG に対応している場合に、無線アクセスポイントの Super AG 設定を自動判別して動作します。なお、使用するパソコンやサーバの環境や能力、周囲の電波環境などにより通信速度が速くならない場合があります。

3-3-1 無線アクセスポイントの検索

本商品では、周囲の無線アクセスポイントを検索して、接続することができます。

無線アクセスポイント側でSSIDを隠蔽する設定を行っている場合は、本商品から無線アクセスポイントを検索できません。



お知らせ

あらかじめ無線アクセスポイントの設定をして、電源が入った（接続可能）状態にしておいてください。

1 タスクバーの通知領域にあるを右クリックします。

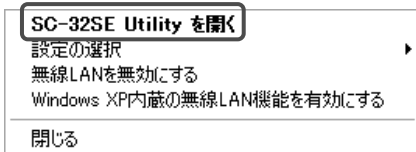
メニューが表示されます。



お知らせ

通知領域にアイコンがない場合は、[スタート]ボタン→[すべてのプログラム] (Windows 2000では[プログラム])→[SC-32SE Utility]→[SC-32SE Utility]の順にクリックしてください。通知領域にが表示されます。

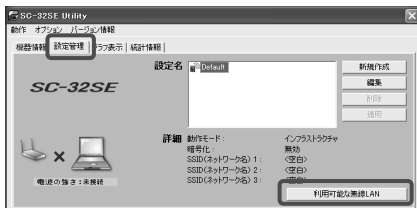
2 [SC-32SE Utility を開く]をクリックします。



[SC-32SE Utility]画面が表示されます。

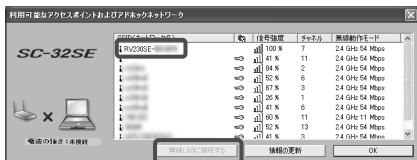
3 [設定管理]タブをクリックします。

4 利用可能な無線 LAN をクリックします。



[利用可能なアクセスポイントおよびアドホックネットワーク]画面が表示されます。

5 接続したいSSID(ネットワーク名)をクリックして、無線 LAN に接続する をクリックします。



[設定の作成・編集]画面が表示されます。



お知らせ

- 無線アクセスポイント側でSSID（ネットワーク名）を隠蔽する設定が行われている場合は、SSID（ネットワーク名）が見えなくなります。
- SSID（ネットワーク名）は、無線アクセスポイントの設定をご確認ください。

6 「設定名」欄に使用目的や場所が分かるような名称を入力します。



(設定名を「NTT」とした場合)

7 暗号化の設定を行います。

暗号化の設定方法は、「5 セキュリティ等の設定について」(👉 p. 43) をご参照ください。

8 OK をクリックします。

9 画面上で電波の強さが「未接続」となっていないことを確認します。

以上で無線アクセスポイントへの無線接続は完了です。



お知らせ

- ・ 無線アクセスポイントで暗号化が設定されている場合は、本商品でも同じ暗号化を設定してください。暗号化の設定方法は、「5-3-3 暗号化の編集」(👉 p. 47) をご参照ください。
- ・ 無線 LAN のセキュリティ設定を行っていない場合は、第三者により通信の内容を盗み見られることや、お客様のパソコンに不正に侵入される可能性があります。無線アクセスポイントのセキュリティに関する設定をご確認のうえ、暗号化をご使用になることをお勧めします。
- ・ 本商品は IEEE802.11a(W52)/g 準拠の無線区間を高速化する技術 (Super AG) に対応しています。本商品は無線アクセスポイントが Super AG に対応している場合に、無線アクセスポイントの Super AG 設定を自動判別して動作します。なお、使用するパソコンやサーバの環境や能力、周囲の電波環境などにより通信速度が速くならない場合があります。

3-4 インターネット接続

インターネットへ接続するには、下記の方法があります。

3-4-1 インターネットへの接続

ここでは、設定用パソコンの OS が Windows XP である場合の設定方法を説明します。Windows 2000 で確認する場合は、「Windows 2000 の場合」もご参照ください。

1 タスクバーの通知領域にある を右クリックします。

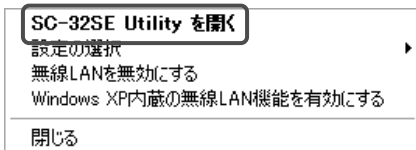
メニューが表示されます。



お知らせ

通知領域にアイコンがない場合は、[スタート]ボタン→[すべてのプログラム] (Windows 2000 では [プログラム])→[SC-32SE Utility]→[SC-32SE Utility]の順にクリックしてください。通知領域に  が表示されます。

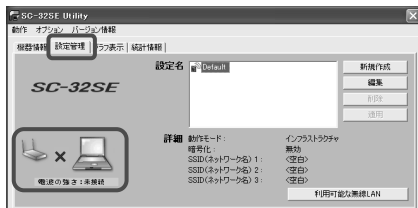
2 [SC-32SE Utility を開く]をクリックします。



[SC-32SE Utility]画面が表示されます。

3 [設定管理]タブをクリックします。

4 「電波の強さ」を確認します。



電波の強さが「普通」または「強い」と表示されることをご確認ください。
「普通」または「強い」と表示されないときは、「普通」または「強い」と表示される位置までパソコンを移動してください。

- 5** [スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]の順にクリックします。

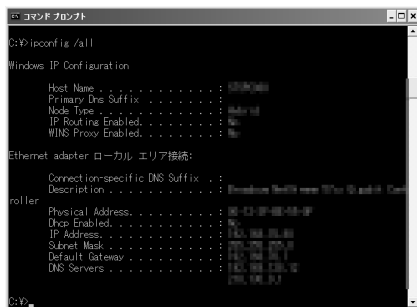
Windows 2000 の場合

[スタート] ボタン → [プログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] の順にクリックします。

[コマンドプロンプト] 画面が表示されます。

- 6** ipconfig /all と入力して、[Enter]キーを押します。

TCP/IP の内容が「IP Address」欄に表示されます。このとき、「192.168.xxx.xxx」（xxx は数字）などの IP アドレスが表示されていれば、正常に IP アドレスが割り当てられています。



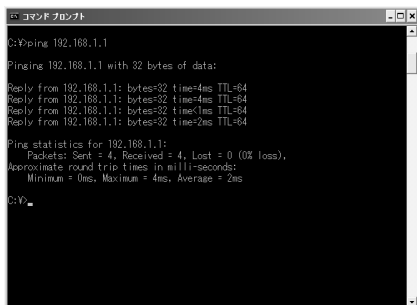
ここでパソコンに適切な IP アドレスが割り当てられていないと、インターネットへ接続できません。割り当てられていない場合は、次の点をご確認ください。

無線アクセスポイントの DHCP サーバ機能を使用する設定になっていますか？

無線アクセスポイントの設定については、無線アクセスポイントの取扱説明書をご確認ください。

- 7** ping xxx.xxx.xxx.xxx (xxx は、手順**6**の画面に表示される Default Gateway アドレス)と入力して、[Enter]キーを押します。

「Reply from xxx. xxx. xxx. xxx・・・」などのメッセージが表示されます。



ここで「Request timed out」または「Destination host unreachable」などのメッセージが表示される場合は、次の点をご確認ください。

機器の接続は正常ですか？

無線アクセスポイントの電源が正しく投入されていることもご確認ください。

無線アクセスポイントの IP アドレスは正しく設定されていますか？

無線アクセスポイントの設定については、無線アクセスポイントの取扱説明書をご確認ください。

- 8** [スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[Internet Explorer]の順にクリックします。

Windows 2000 の場合

[スタート] ボタン → [プログラム] → [Internet Explorer] の順にクリックします。

「Internet Explorer」が起動します。

- 9 「アドレス」欄に http://www.east-plus.com/ と入力して[Enter]キーを押します。



当社のホームページが正しく表示されていることをご確認ください。正しく表示されたら、インターネットへ接続するための設定は完了です。

このままでもインターネットへ接続できますが、通信内容を盗聴される恐れがあります。「5 セキュリティ等の設定について」(p. 43)をご参照のうえ、本商品のセキュリティを強化することを強く推奨します。

4 アドホックモードで使う

本商品をアドホックネットワークへ接続する方法を説明します。

アドホックネットワークは、無線アクセスポイントがなくても、無線 LAN 子機を使って無線 LAN を構築できます。

4-1 アドホック設定の流れ

アドホックモードでアドホックネットワークへ接続する場合は、次の手順で行ってください。

アドホックネットワークのSSID、チャンネルを確認する

- アドホックネットワークの接続例 (👉 p. 39)

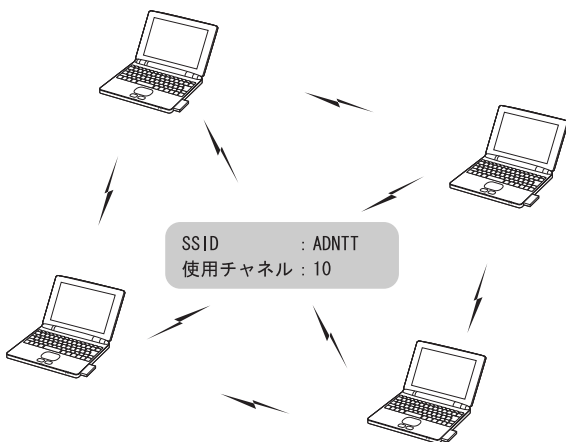


アドホックネットワークへ接続する

- アドホックネットワークへの無線接続 (👉 p. 40)

4-2 アドホックネットワークの接続例

ここでは、アドホックネットワークで使用する無線 LAN 規格を「IEEE802.11b」、SSID を「ADNTT」、使用チャンネルを「10」に設定して使用する場合を例として説明します。



お知らせ

- ・ アドホックネットワークの無線 LAN を構築するには、本商品のほかに使用する無線 LAN 子機が、アドホックモードに対応している必要があります。
- ・ 無線アクセスポイントを使って無線 LAN を構築する場合は、アドホックモードではなく、インフラストラクチャモードを使用してください。
- ・ アドホックネットワーク内の、すべての無線 LAN 子機の SSID および使用チャンネルの設定は統一してください。
- ・ 本商品のアドホックモードは IEEE802.11a(W52)/b に対応しています。

4-3 アドホックネットワークへの無線接続

「SC-32SE Utility」からアドホックネットワークへ接続します。

- 1 タスクバーの通知領域にある  を右クリックします。

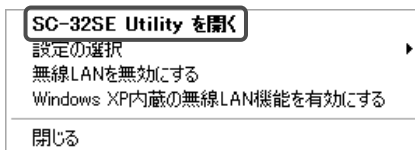
メニューが表示されます。



お知らせ

通知領域にアイコンがない場合は、[スタート]ボタン→[すべてのプログラム] (Windows 2000 では [プログラム]) → [SC-32SE Utility] → [SC-32SE Utility] の順にクリックしてください。通知領域に  が表示されます。

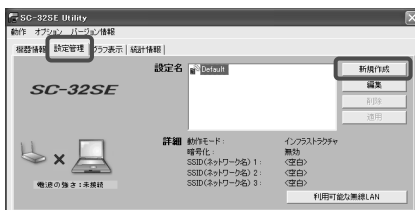
- 2 [SC-32SE Utility を開く] をクリックします。



[SC-32SE Utility]画面が表示されます。

- 3 [設定管理]タブをクリックします。

- 4 新規作成 をクリックします。



[設定の作成・編集]画面が表示されます。

5 「設定名」欄に使用目的や場所が分かるような名称を入力します。

6 「SSID1」欄に ADNTT(アドホックネットワークの SSID)と入力します。



お知らせ

- ・ SSIDには、32文字以内の半角英数字を入力してください。
- ・ アルファベットの大文字・小文字は区別されますので、注意してください。

7 [詳細設定] タブをクリックし、「動作モード」欄から「アドホック」を選択します。



8 暗号化の設定を行います。

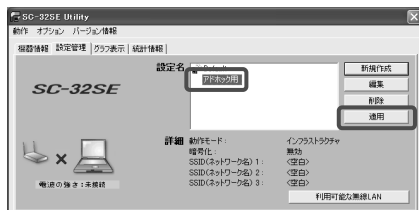
暗号化の設定方法は、「5 セキュリティ等の設定について」(👉 p. 43) をご参照ください。

9 「使用チャンネル」欄から「10」(アドホックネットワークのチャンネル)を選択して、OK をクリックします。



[SC-32SE Utility]画面に戻ります。

10 手順5で入力した設定名を選択して、適用 をクリックします。



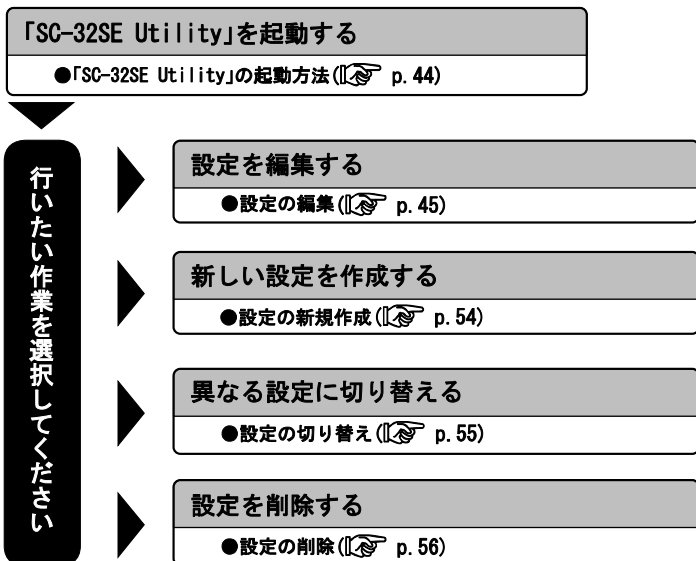
以上でアドホックネットワークへの接続は完了です。

5 セキュリティ等の設定について

セキュリティ等、無線通信の設定方法を説明します。
本商品では、無線通信の設定を、「SC-32SE Utility」で行います。

5-1 セキュリティ等の設定の流れ

セキュリティ等の無線通信の設定は、次の手順で行ってください。



お知らせ

- 本章では、「SC-32SE Utility」を使った無線通信の設定だけを説明しています。「SC-32SE Utility」の、その他の項目については、「9-1 SC-32SE Utilityの詳細設定」(👉 p. 66)をご参照ください。
- 「まるごと設定ツール」を使っている場合、セキュリティの設定は WPA-PSK (TKIP) で設定されます。

5-2 「SC-32SE Utility」の起動方法

「SC-32SE Utility」はタスクバーの通知領域から起動します。

1 タスクバーの通知領域にある を右クリックします。

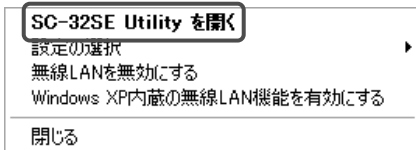
メニューが表示されます。



お知らせ

通知領域にアイコンがない場合は、[スタート]ボタン→[すべてのプログラム] (Windows 2000 では [プログラム]) → [SC-32SE Utility] → [SC-32SE Utility] の順にクリックしてください。通知領域に  が表示されます。

2 [SC-32SE Utility を開く] をクリックします。



[SC-32SE Utility] 画面が表示されます。

以上で「SC-32SE Utility」の起動は完了です。

5-3 設定の編集

現在、登録されている設定を編集します。
設定の編集は、次の3つに分かれます。

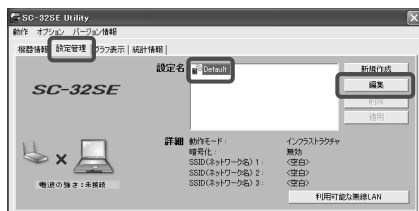
設定名およびSSIDの編集 (👉 p. 46)

暗号化の編集 (👉 p. 47)

その他の編集 (👉 p. 52)

5-3-1 編集画面の呼び出し

- 1 [SC-32SE Utility]画面から[設定管理]タブをクリックします。
- 2 「設定名」欄から、編集したい設定をクリックします。
- 3 **編集** をクリックします。



[設定の作成・編集]画面が表示されます。

以上で編集画面の呼び出しは完了です。

5-3-2 設定名およびSSIDの編集

無線通信の設定名およびSSIDを編集します。[設定の作成・編集]画面の[全般]タブから操作します。

1 「設定名」欄に使用目的や場所が分かるような名称を入力します。



お知らせ

設定名は、2つ以上の設定を使用しているときに、それぞれを識別するために使用します。

2 「SSID1」欄に無線LANで使用しているSSIDを入力します。



お知らせ

- ・SSIDには、32文字以内の半角英数記号を入力してください。
- ・アルファベットの太文字・小文字は区別されますので、注意してください。
- ・通常は、SSID1に入力してください。SSID2、SSID3には何も入力しないでください。
- ・SSIDは、無線アクセスポイントの設定をご確認ください。なお、無線アクセスポイントの初期設定時のSSIDは、無線アクセスポイント本体側面に記載しています。

3 OK をクリックします。

以上でSSIDの設定は完了です。

5-3-3 暗号化の編集

暗号化設定は、無線通信でやり取りするデータを暗号化して、無線通信のセキュリティを高めるための機能です。本商品の暗号化設定は、[設定の作成・編集]画面の[暗号化設定]タブから操作します。

SC-32SE Utility で使用できる暗号化設定は、「WEP」、「WPA-PSK (TKIP、AES)」の2つです。それぞれの設定方法は次のページをご参照ください。



WEP (👉 p. 48)

WEP (64/128/152bit) を設定する場合に選択します。

WPA-PSK (TKIP、AES) (👉 p. 50)

TKIP または AES を設定する場合に選択します。本商品は無線アクセスポイント側の設定に合わせて TKIP、AES を自動判別します。



お知らせ

- ・ アドホックモードを使用する場合は、「WPA-PSK (TKIP、AES)」は使用できません。
- ・ WPA-PSK (TKIP、AES) と WEP のセキュリティ強度を強い順に並べると、①から④の順になります。

- ①WPA-PSK (TKIP、AES)
- ②WEP (152bit)
- ③WEP (128bit)
- ④WEP (64bit)

無線アクセスポイントおよびすべての無線 LAN 子機に対応している形式の中で、一番セキュリティが強い形式を選択してください。

データの漏洩を防ぐために、暗号化設定の使用を強く推奨します。

WEP

WEP は、無線通信でやり取りするデータを暗号化して、無線通信のセキュリティを高めるための機能です。

この機能を使用すると、正しい WEP キーを知らないユーザーが無線通信を盗聴しても、その内容を理解できません。

1 「WEP」を選択します。

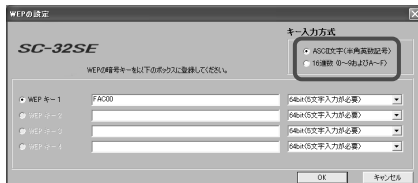
2 暗号/認証の設定 をクリックします。



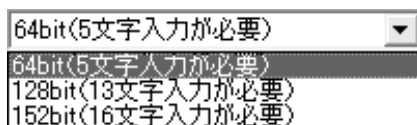
[WEP の設定] 画面が表示されます。

3 「キー入力方式」欄から使用するキー入力方式を選択します。

「ASCII 文字」または「16 進数」のどちらかを選択してください。



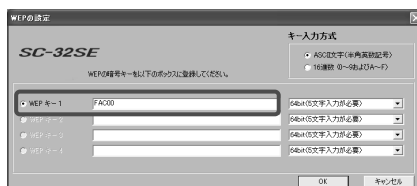
- 4** 使用したい WEP キー番号の入力欄の右にあるプルダウンメニューから、使用するキーの長さを選択します。



お知らせ

「WEPキー-1」から「WEPキー-4」は、どれを使用しても構いません。

- 5** WEP キーの入力欄をクリックし、WEP キーを入力します。



お知らせ

キー入力方式、使用するWEPキー番号、キーの長さ、および入力するWEPキーは、無線LAN内で統一する必要があります。



お願い

アルファベットの大文字・小文字は区別されますので、注意してください。

WEP キーの必要入力文字数

WEP キーの長さ	必要な入力文字数	入力可能な文字
64bit ASCII	5 文字	・ 半角記号
128bit ASCII	13 文字	・ 0~9 までの半角数字
152bit ASCII	16 文字	・ A~Z および a~z までの半角英字
64bit 16 進数	10 文字	・ 0~9 までの半角数字
128bit 16 進数	26 文字	・ A~F および a~f までの半角英字
152bit 16 進数	32 文字	(入力した文字は全て大文字で表示されます)

- 6** **OK** をクリックします。

以上で WEP の設定は完了です。

WPA-PSK (TKIP、AES)

TKIP または AES を設定する場合に選択します。WPA-PSK (TKIP、AES) は、無線通信でやり取りするデータを暗号化して、無線通信のセキュリティを高めるための機能です。この機能を使用すると、正しいパスワードを知らないユーザーが無線通信を盗聴しても、その内容を理解できません。



お知らせ

本商品は、WPA-PSK (TKIP、AES) で使用する暗号化方式 (TKIP、AES) を自動判別して接続します。

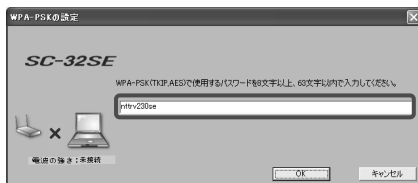
1 「WPA-PSK (TKIP、AES)」を選択します。

2 暗号/認証の設定 をクリックします。



[WPA-PSK の設定] 画面が表示されます。

3 WPA-PSK (TKIP、AES) で使用する パスワード (Pre-Shared Key、事前共有キー) を入力します。



お知らせ

- ・使用するパスワードは、無線LAN内で同一に設定してください。
- ・8文字以上63文字以内の半角英数記号で入力してください。



お願い

アルファベットの太文字・小文字は区別されますので、注意してください。

4 OK をクリックします。

以上で WPA-PSK (TKIP、AES) の設定は完了です。



お知らせ

無線アクセスポイントで暗号化方式を切り替えた際、接続できない場合は、パソコンを再起動してください。

5-3-4 その他の編集

設定の詳細部分の編集は、[設定の作成・編集]画面の[詳細設定]タブから操作します。



①省電力設定

本商品の省電力モードを選択します。通常は「有効(通常レベル)」を選択してください。

②動作モード

インフラストラクチャモードで使用する場合は「インフラストラクチャ」を、アドホックモードで使用する場合は「アドホック」を選択します。

③802.11b プリアンブル形式

送信データへ付加する同期信号(プリアンブル)の形式を選択します。通常は「ショート&ロング」を選択してください。本設定は、IEEE802.11b規格で通信する場合にだけ有効です。

④送信出力レベル

電波の射出レベルを、「100%」、「50%」、「25%」、「12%」、「6%」から選択します。数値が高いほど、無線通信可能な距離が長くなります。遠方に電波を飛ばしたくない場合等は、出力レベルを下げてください。通常は「100%」を選択してください。

⑤通信可能な無線 LAN 規格

本商品が使用する無線 LAN 規格にチェックを入れます。チェックが入っていない無線 LAN 規格では、本商品は通信できません。

また、QoS を有効にする場合は、QoS にチェックを入れてください (QoS を使用するには無線アクセスポイント側で QoS を有効にしている必要があります)。



お願い

IEEE802.11a (W52) モードは電波法により屋外での使用が禁止されています。本商品を屋外で使用する場合は、5GHz 54Mbps (IEEE802.11a (W52)) のチェックを外して、以下のいずれかのモードでご使用ください。

- 2.4GHz 54Mbps (IEEE802.11g)
- 2.4GHz 11Mbps (IEEE802.11b)

⑥アドホックモード使用時の無線 LAN 設定

アドホックモードで使用する周波数帯と使用チャネル番号を選択します。

アドホックモードを使用する場合は「⑤ 通信可能な無線 LAN 規格」で以下の使用するモードにチェックを入れる必要があります。

- 5GHz 54Mbps (IEEE802.11a (W52))
- 2.4GHz 11Mbps (IEEE802.11b)



お知らせ

アドホックモードでは QoS、Super AG は使用できません。

なお、5GHz 54Mbps (IEEE802.11a (W52)) を使用する場合は、「使用チャネル」の指定はできません。

5-4 設定の新規作成

新たに設定を作成したい場合は、次の手順で作成してください。

- 1 [SC-32SE Utility]画面から[設定管理]タブをクリックします。
- 2 新規作成 をクリックします。



[設定の作成・編集]画面が表示されます。

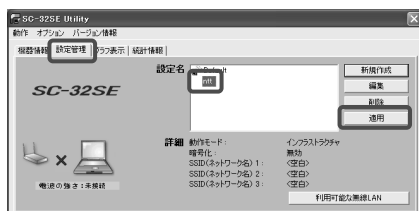
- 3 「設定の編集」(👉 p.45)をご参照のうえ、各項目の設定を編集します。

以上で設定の新規作成は完了です。

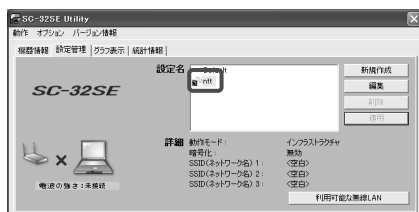
5-5 設定の切り替え

設定が 2 つ以上ある場合、現在使用している設定から他の設定に切り替える方法を説明します。

- 1 [SC-32SE Utility]画面から[設定管理]タブをクリックします。
- 2 「設定名」欄から、新たに使用したい設定をクリックします。
- 3 適用 をクリックします。



新たに使用したい設定の先頭へアイコンが移動します。



以上で設定の切り替えは完了です。

5-6 設定の削除

不要になった設定は、次の手順で削除してください。

- 1 [SC-32SE Utility]画面から[設定管理]タブをクリックします。

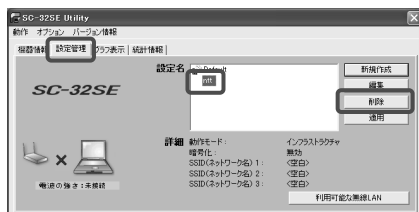


お知らせ

削除したい設定が現在使用中の場合は、「5-5 設定の切り替え」(p. 55)をご参照のうえ、他の設定に切り替えてください。

- 2 「設定名」欄から削除したい設定をクリックします。

- 3 **削除** をクリックします。



選択した設定が削除されます。

以上で設定の削除は完了です。

6 本商品の取り外し

本商品を取り外すときは、必ず次の手順に従って取り外してください。

手順を無視して本商品を取り外さないでください。本商品が故障する恐れがあります。

6-1 本商品取り外しの流れ

本商品の取り外しは、次の手順で行ってください。

取り外し方法を選択してください

無線アクセスポイントの電源を切断して取り外す

● 6-2 電源を切断して取り外す (👉 p. 57)

パソコンの電源を切断して取り外す

● 6-2 電源を切断して取り外す (👉 p. 57)

パソコンの電源を入れたまま取り外す

● 6-3 電源を入れたまま取り外す (👉 p. 58)

6-2 電源を切断して取り外す

- 1 無線アクセスポイントおよびパソコンの電源を切断します。
- 2 本商品を無線アクセスポイントおよびパソコンから取り外します。

6-3 電源を入れたまま取り外す

パソコンの電源を入れたまま、本商品をパソコンから取り外すときは、必ず次の手順に従って取り外してください。ここでは、パソコンの OS が Windows XP である場合の取り外し方法を説明します。Windows 2000 で取り外す場合は、「Windows 2000 の場合」もご参照ください。



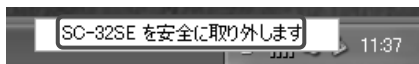
お願い

- ・ 手順を無視して本商品をパソコンから取り外さないでください。本商品が故障する恐れがあります。
- ・ 次の手順を行う前に、ネットワークの接続を終了してください。データ転送中に本商品を外すと、データを損失する恐れがあります。

1 タスクバーの通知領域にあるハードウェアアイコンをクリックします。

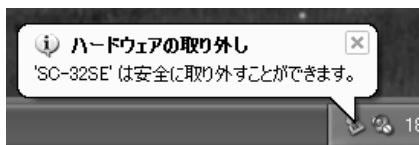


2 [SC-32SE を安全に取り外します](Windows 2000 では[SC-32SE の停止])をクリックします。



[ハードウェアの取り外し]画面が表示されます。

3 本商品をパソコンから取り外します。



Windows 2000 の場合

OK をクリックして、本商品をパソコンから取り外します。

7 アンインストール

パソコンにインストールしたプログラムおよびドライバなどを削除することを、「アンインストール」と呼びます。ここでは、パソコンの OS が Windows XP である場合のアンインストール方法を説明します。Windows 2000 で取り外す場合は、「Windows 2000 の場合」もご参照ください。

STOP

お願い

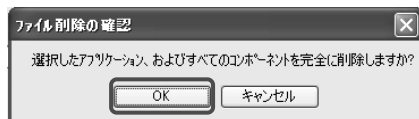
- ・ Windows XP/2000 を使用している場合には、Windows の「管理者」か「Administrator」の権限を持つユーザー名でログインしてください。それ以外のユーザー名でログインすると、正常にアンインストールできない場合があります。
- ・ アンインストールするときは、必ず本商品をパソコンに接続してください。本商品を外した状態でアンインストールを行うと、ネットワークの設定がドライバとユーティリティをインストールする前の状態に戻らない場合があります。

- 1 **[スタート] ボタン** → **[すべてのプログラム]** → **[SC-32SE Utility]** → **[SC-32SE Utility の削除]** の順にクリックします。

Windows 2000 の場合

[スタート] ボタン → **[プログラム]** → **[SC-32SE Utility]** → **[SC-32SE Utility の削除]** の順にクリックします。

- 2 **OK** をクリックします。



[メンテナンスの完了] 画面が表示されます。

3 完了 をクリックします。



パソコンが自動的に再起動します。以上でアンインストールは完了です。

8 トラブルシューティング

ここでは、本商品を使用するにあたり、よくある質問とその回答を表記しております。本商品が正常に動作しないときは、本章をご参照ください。

8-1 インストール時の疑問

症 状	原因と対策
インストールできません	●Windows XP/2000 をご使用の場合、Windows の「管理者」または「Administrator」の権限を持つユーザー名でインストールを実行してください。
	●パーソナルファイアーウォールソフト等の、セキュリティ関係のソフトウェアを起動させていると、インストールが正しく実行できません。インストール前にソフトウェアを停止させてください。
	●以下の機器がパソコンにインストールされていると、正しくインストールできない場合があります。その場合は、以下の機器をアンインストールしてから、インストールを実行してください。 ・ 本商品以外の無線 LAN カード ・ 本商品以外の無線 LAN カードのユーティリティ

8-2 動作がおかしい

症 状		原因と対策
本商品が正常に動作しません		●ご使用のパソコンに標準で装着されている無線 LAN カードが、動作している可能性があります。 デバイスマネージャや BIOS 等で、標準無線 LAN カードの設定を無効にしてください。設定方法については、ご使用のパソコンの取扱説明書をご参照ください。
		●ご使用のパソコンの、パワーマネジメント機能が動作している可能性があります。 パワーマネジメント機能の設定を OFF にしてください。設定方法については、ご使用のパソコンの取扱説明書をご参照ください。
		●ドライバまたはユーティリティが正しくインストールされていない可能性があります。 「2 SC-3 2 SE ユーティリティのインストール」(👉 p. 18) をご参照のうえ、ドライバとユーティリティを正しくインストールしてください。
		●本商品がパソコンに正しく認識されていない可能性があります。本商品をパソコンの PC カードスロットから一度取り外してから、再度挿入してください。 本商品を PC カードスロットから取り外す場合は、「6. 本商品の取り外し」(👉 p. 57) をご参照ください。
無線アクセスポイントに接続できません	SSID を忘れてしまいました	●無線アクセスポイントの SSID をご確認ください。
	暗号化キーを忘れてしまいました	●無線アクセスポイントの暗号化キーをご確認ください。
		●無線アクセスポイントの電源プラグ、または電源コードがコンセントに差し込まれているかご確認ください。
		●無線アクセスポイントとの距離が離れすぎていないか、ご確認ください。

症 状	原因と対策
通信ができません	●無線 LAN 子機同士の間、または無線 LAN 子機と無線アクセスポイントの間に、障害物がある可能性があります。基本的に電波は壁や天井等に反射するため、障害物があっても各端末間は通信できます。ただし、障害物により電波が遮断されることがあるため、端末間にはなるべく障害物を置かないようにしてください。
	●ネットワークの設定が適切でない可能性があります。必要なネットワークコンポーネントがすべてそろっているか、SSID の設定は正しいか、「IP アドレス」と「サブネットマスク」を使用している場合は各数値が正しいか、ご確認ください。
	●本商品使用中に、サスペンドまたはハイバネーション（休止状態）等の省電力機能を使用している可能性があります。本商品使用時は、省電力機能を使用しないでください。
	●ドライバまたはユーティリティが正しくインストールされていない可能性があります。 「2 SC-32SE ユーティリティのインストール」(👉 p. 18) をご参照のうえ、ドライバとユーティリティを正しくインストールしてください。
	●本商品がパソコンに正しく認識されていない可能性があります。本商品をパソコンの PC カードスロットから一度取り外してから、再度挿入してください。本商品を PC カードスロットから取り外す場合は、「6. 本商品の取り外し」(👉 p. 57) をご参照ください。

症 状	原因と対策
無線アクセスポイントまたは無線 LAN カードに接続できません	●SSID があっているか、ご確認ください。
	●暗号化を有効にしている場合は、無線アクセスポイントの暗号化キーと一致しているか、ご確認ください。
	●動作モードがあっているか、ご確認ください。無線アクセスポイントとの通信は、動作モードを「インフラストラクチャ」に設定します。設定方法は、「5-3-4 その他の編集」(👉 p. 52) をご参照ください。
	●動作モードが「アドホック」の場合、使用チャネルが一致しているか、ご確認ください。設定方法は、「4-3 アドホックネットワークへの無線接続」(👉 p. 40) をご参照ください。
	●ネットワークを指定して接続するには、「3-3 無線アクセスポイントへの無線接続」(👉 p. 28) をご参照ください。
無線アクセスポイントまたは無線 LAN カードに接続できない	●10BASE-T/100BASE-TX インタフェースを搭載したパソコンの場合、LAN カードおよび LAN ボードの機能を停止させないと、本商品のドライバが正しくインストールされない場合があります。LAN カードおよび LAN ボードの機能を停止させてから、設定を行ってください。
IEEE802.11a(W52) に設定された無線アクセスポイントを認識できません	●本商品の初期設定では、IEEE802.11a(W52) モードが無効になっています。 本商品の IEEE802.11a(W52) モードを有効にするには、「5-3-4 その他の編集」(👉 p. 52) の⑤をご参照のうえ、「通信可能な無線 LAN 規格」から「5GHz 54Mbps (IEEE802.11a(W52))」にチェックを入れてください。
	●本商品の IEEE802.11a(W52) モードは、「36ch、40ch、44ch、48ch」(W52) に対応しています。 「34ch、38ch、42ch、46ch」(J52) および「52ch、56ch、60ch、64ch」(W53) では接続できません。 ※IEEE802.11a(W52) モードは、電波法により屋外の使用が禁止されています。IEEE802.11a(W52) モードを有効にする場合は、本商品を屋内で使用してください。

8-3 使用時の疑問

質 問	回 答
他社の無線 LAN カードや無線アクセスポイントと、通信ができますか。	● IEEE802.11a (W52) /g/b 準拠の製品であれば通信は可能です。しかし、他社製品と通信する場合、動作の保証およびサポートはいたしかねます。
インフラストラクチャモード使用時は、使用チャネルの変更はできますか。	● 本商品は無線アクセスポイントが設定したチャネルを自動的に選択します。 チャネルを変更する場合は、無線アクセスポイント側のチャネルを変更してください。
病院や航空機等、電子機器の制限がある場所にノートパソコンや PDA を持ち込む場合、本商品を取り外す必要はありますか。	● 取り外す必要があります。本商品は携帯電話等と同じように、電波を使用した製品です。本商品をノートパソコンや PDA に装着された状態の場合、本商品から電波が発信されるため、本商品を事前に取り外してください。
本商品の電磁波による、人体への悪影響はありませんか。	● 人体への悪影響は、科学的に証明されておりません。また、本商品が小電力無線であることや、人体に極端に近づけて使用するものではないため、悪影響があると考えられません。

9 付録

9-1 SC-32SE Utilityの詳細設定

本商品の動作を設定する「SC-32SE Utility」について説明しています。

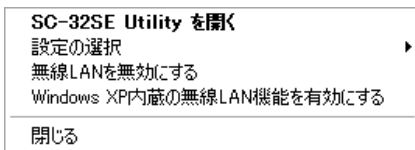


お願い

- ・ Windows の「管理者」か「Administrator」の権限を持つユーザー名でログインしてください。それ以外のユーザー名でログインすると、一部機能が使用できない場合があります。
- ・ 本商品をパソコンへ装着した状態で起動させてください。

9-1-1 ショートカットメニュー

タスクバーの通知領域にある  を右クリックすると表示されるメニューです。



①SC-32SE Utility を開く

[SC-32SE Utility]画面が表示されます。

②設定の選択

無線 LAN 通信で使用する設定名を選択します。

③無線 LAN を無効（有効）にする

無線 LAN 機能の無効／有効を切り替えます。

④Windows XP 内蔵の無線 LAN 機能を有効にする

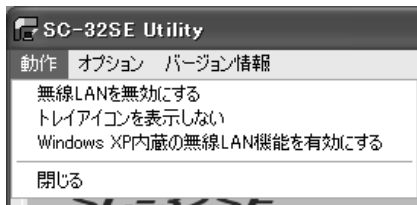
Windows XP 標準の無線 LAN 設定機能の有効／無効を切り替えます。
使用している OS が Windows XP の場合だけ表示されます。

⑤閉じる

タスクバーの通知領域から  を削除します。

9-1-2 動作メニュー

本商品の動作を設定する機能が集まっているメニューです。メニューバーから[動作]をクリックすると表示されます。



①無線 LAN を無効（有効）にする

無線 LAN 機能の無効／有効を切り替えます。

②トレイアイコンを表示しない

タスクバーの通知領域から  を削除します。

③Windows XP 内蔵の無線 LAN 機能を有効にする

Windows XP 標準の無線 LAN 設定機能の有効／無効を切り替えます。
使用している OS が Windows XP の場合だけ表示されます。

④閉じる

[SC-32SE Utility]画面を閉じます。

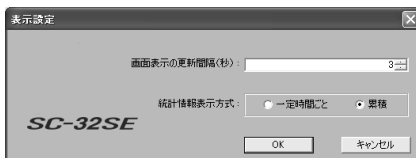
9-1-3 オプションメニュー

メニューバーから[オプション]をクリックすると表示されます。



[表示設定]画面

「SC-32SE Utility」の表示形式を設定する画面です。オプションメニューから[表示設定]をクリックすると表示されます。



①画面表示の更新間隔（秒）

表示される情報が更新される間隔を 1～5 秒の間で設定します。

②統計情報表示方式

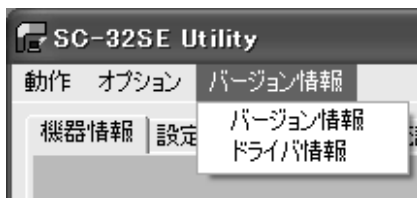
[統計情報]タブおよび[詳細統計情報]画面で表示されるデータの表示方式を、「一定時間ごと」「累積」のいずれかから選択します。

「一定時間ごと」を選択すると、最後に更新してから累積された統計データが表示されます。

「累積」を選択すると、ドライバを最初にロードしてから累積された統計データが表示されます。

9-1-4 バージョン情報メニュー

本商品のドライバおよび「SC-32SE Utility」のバージョン情報を表示する機能が集まっています。メニューバーから[バージョン情報]をクリックすると表示されます。



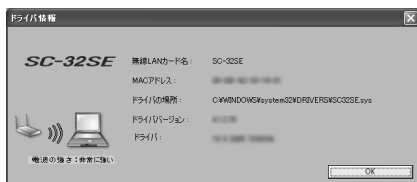
[バージョン情報]画面

バージョン情報メニューから[バージョン情報]をクリックすると、「SC-32SE Utility」のバージョンが表示されます。



[ドライバ情報]画面

バージョン情報メニューから[ドライバ情報]をクリックすると、本商品のドライバ情報が表示されます。



①無線 LAN カード名

本商品の商品名「SC-32SE」が表示されます。

②MAC アドレス

本商品に割り当てられている MAC アドレスが表示されます。本商品の MAC アドレスは、本商品底面部に貼付されているシールにも記載されています。

③ドライバの場所

ドライバをインストールしている場所がフルパスで表示されます。

④ドライババージョン

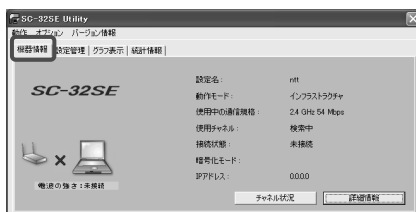
ドライバのバージョンが表示されます。

⑤ドライバ

ドライバが製造された日時が表示されます。

9-1-5 [機器情報] タブ

機器情報が表示されます。



①設定名

現在の無線通信で使用している設定名が表示されます。設定名の一覧は、[設定管理]タブ (👉 p. 74) の「設定名」から参照できます。

②動作モード

動作モードが表示されます。本商品で使用できる動作モードは、「インフラストラクチャ」と「アドホック」です。無線アクセスポイントを使用する無線 LAN へ接続するときは「インフラストラクチャ」を、そうでないときは「アドホック」を使用します。動作モードの詳細は、「5-3-4 その他の編集」 (👉 p. 52) の「動作モード」をご参照ください。

③使用中の通信規格

現在の無線通信で使用している無線LAN規格が、次のように表示されます。

- ・ IEEE802.11a(W52) 通信時：「5GHz 54Mbps」
- ・ IEEE802.11g 通信時：「2.4GHz 54Mbps」
- ・ IEEE802.11b 通信時：「2.4GHz 11Mbps」

通信規格の詳細は、「5-3-4 その他の編集」(👉 p. 52) の「通信可能な無線LAN規格」をご参照ください。



お知らせ

QoS、Super AG の動作状態は表示されません。

④使用チャネル

現在の無線通信で使用しているチャネルが表示されます。

⑤接続状態

現在の無線通信の状態が表示されます。無線LANへ接続しているときは「接続中」、そうでないときは「未接続」と表示されます。

⑥暗号化モード

現在の無線通信で使用している暗号化モードが表示されます。SC-32SE Utility で使用できる暗号化モードは「WPA-PSK(TKIP、AES)」、「WEP」です。

⑦IPアドレス

本商品のIPアドレスが表示されます。

⑧ チャネル状況

クリックすると[チャネル状況]画面が表示されます。[チャネル状況]画面の説明については p. 72 をご参照ください。

⑨ 詳細情報

クリックすると[詳細情報]画面が表示されます。[詳細情報]画面の説明については p. 73 をご参照ください。

[チャンネル状況]画面

[機器情報]タブから **チャンネル状況** をクリックすると、[チャンネル状況]画面が開き、チャンネル状況が表示されます。近くの無線アクセスポイントが、どのチャンネルで使用されているかが表示されます。現在接続中のチャンネルは赤で表示されます。

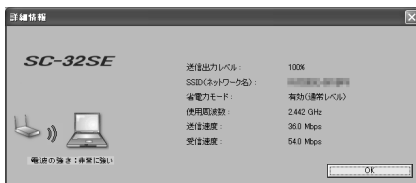


お知らせ

現在の無線通信で使用している無線 LAN 規格に対応するチャンネルだけが表示されます。

[詳細情報] 画面

[機器情報] タブから **詳細情報** をクリックすると、[詳細情報] 画面が開き、無線通信情報が表示されます。



①送信出力レベル

現在の無線通信で使用している電波の強さが表示されます。送信出力レベルの詳細は、「5-3-4 その他の編集」(👉 p. 52)の「送信出力レベル」をご参照ください。

②SSID(ネットワーク名)

現在接続している無線 LAN の SSID が表示されます。無線 LAN へ接続していないときは表示されません。

③省電力モード

省電力モードの設定状態が表示されます。省電力モードの詳細は、「5-3-4 その他の編集」(👉 p. 52)の「省電力設定」をご参照ください。

④使用周波数

現在の無線通信で使用している周波数が表示されます。

⑤送信速度

現在の送信速度が、次のように表示されます。

- ・ IEEE802.11a (W52) / g 通信時 :
最高で 54Mbps (Super AG 機能の動作状態によらない)
- ・ IEEE802.11b 通信時 :
最高で 11Mbps

⑥受信速度

現在のデータの受信速度が表示されます。

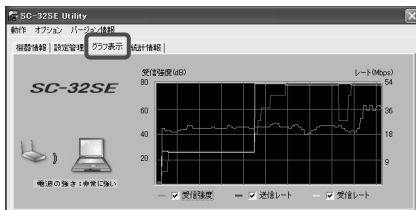
9-1-6 「設定管理」タブ

「設定管理」タブの説明は、「5 セキュリティ等の設定について」(p. 43) をご参照ください。



9-1-7 [グラフ表示]タブ

受信強度、送信レート、および受信レートの数値が、時系列の線グラフ形式で表示されます。



①受信強度

受信中の電波の強度が表示されます。線の色は緑色です。グラフ下にあるチェックボックスからチェックを外すと、グラフが非表示になります。

②送信レート

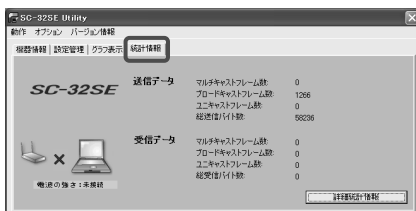
データ送信速度が表示されます。線の色は赤色です。グラフ下にあるチェックボックスからチェックを外すと、グラフが非表示になります。

③受信レート

データ受信速度が表示されます。線の色は黄色です。グラフ下にあるチェックボックスからチェックを外すと、グラフが非表示になります。

9-1-8 [統計情報] タブ

データの送受信情報が表示されます。表示されている数値は、累計で表示させる方法と単位時間ごとに表示させる方法を選択できます。
表示方法の選択は、「9-1-3 オプションメニュー」(p. 68)の「[表示設定]画面」をご参照ください。



①マルチキャストフレーム数(送信データ)

マルチキャストで送信したフレーム数がカウントされます。

②ブロードキャストフレーム数(送信データ)

ブロードキャストで送信したフレーム数がカウントされます。

③ユニキャストフレーム数(送信データ)

ユニキャストで送信したフレーム数がカウントされます。

④総送信バイト数(送信データ)

総送信バイト数がカウントされます。

⑤マルチキャストフレーム数(受信データ)

マルチキャストで受信したフレーム数がカウントされます。

⑥ブロードキャストフレーム数(受信データ)

ブロードキャストで受信したフレーム数がカウントされます。

⑦ユニキャストフレーム数(受信データ)

ユニキャストで受信したフレーム数がカウントされます。

⑧総受信バイト数(受信データ)

総受信バイト数がカウントされます。

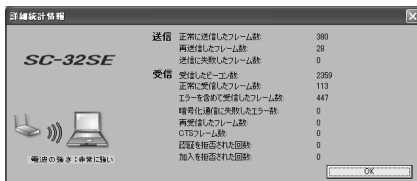
⑨ 詳細統計情報

クリックすると[詳細統計情報]画面が表示されます。[詳細統計情報]画面の説明については p. 78 をご参照ください。

[詳細統計情報]画面

[統計情報]タブから **詳細統計情報** をクリックすると、[詳細統計情報]画面が開き、データ送受信の詳細な情報が表示されます。表示されている数値は、累計で表示させる方法と単位時間ごとに表示させる方法を選択できます。

表示方法の選択は、「9-1-3 オプションメニュー」(👉 p. 68)の「[表示設定]画面」をご参照ください。



送信	
正常に送信したフレーム数	380
再送信したフレーム数	28
送信に失敗したフレーム数	0
受信	
受信したビーコン数	2359
正常に受信したフレーム数	113
エラーを含めて受信したフレーム数	447
検出エラーに失敗したエラー数	0
再送信したフレーム数	0
CTSフレーム数	0
認証を拒否された回数	0
加入を拒否された回数	0

OK

①正常に送信したフレーム数(送信)

送信時に、正常に送信したフレーム数がカウントされます。

②再送信したフレーム数(送信)

送信時に、再送信したフレーム数がカウントされます。

③送信に失敗したフレーム数(送信)

送信時に、送信に失敗したフレーム数がカウントされます。

④受信したビーコン数(受信)

受信時に、正常に受信したビーコン数がカウントされます。

⑤正常に受信したフレーム数(受信)

受信時に、正常に受信したフレーム数がカウントされます。

⑥エラーを含めて受信したフレーム数(受信)

受信時に、エラーも含めて受信したフレーム数がカウントされます。

⑦暗号化通信に失敗したエラー数(受信)

受信時に、暗号化通信を失敗した回数がカウントされます。

⑧再受信したフレーム数(受信)

受信時に、再受信したフレーム数がカウントされます。

⑨CTS フレーム数(受信)

受信時に、正常に受信した CTS フレーム数がカウントされます。

⑩認証を拒否された回数(受信)

受信時に、無線 LAN から認証を拒否された回数がカウントされます。

⑪加入を拒否された回数(受信)

受信時に、無線 LAN から加入(接続)を拒否された回数がカウントされます。

9-2 用語集

ここでは、無線 LAN で使用する用語について説明します。

無線 LAN (IEEE802.11a (W52) /g/b) について

本商品は IEEE802.11a (W52) /g/b 規格に準拠した無線 LAN 製品です。IEEE802.11a (W52) で使用される 5GHz 帯は、電波法により屋外での使用が禁止されています。しかし 2.4GHz 帯を使用する機器の多い環境で使うと電波干渉が少なく、IEEE802.11g/b よりも安定した通信ができるという特徴があります。(実際の通信状態は宅内での障害物の有無や、電波の受信状態にも依存します。) 無線 LAN で使用する用語には、次のようなものがあります。

アクセスポイント

アクセスポイントは、有線 LAN とインフラストラクチャモードに設定した無線 LAN カードとの通信の中継や、無線 LAN カード同士の通信の管理を行います。無線端末側に無線 LAN カードを装着する必要があります。

本書では、本商品を装着した当社指定の無線対応機器を「無線アクセスポイント」と表記しています。

アドホック (Ad hoc)

無線アクセスポイントを使用せずに、無線 LAN カードだけで無線 LAN を構築する場合に使用します。アドホックモードでは、インフラストラクチャモードの無線 LAN カードや無線アクセスポイントとの通信はできません。反面、アドホックモードの端末のみが通信可能な小規模なネットワークを構築することで、インフラストラクチャモードに比べて、セキュリティを高めることができます。

インフラストラクチャ (Infrastructure)

インフラストラクチャモードでは、有線ネットワークと無線ネットワークを混在して使用できます。例えばパソコンに本商品を接続し、無線アクセスポイントに既存の有線 LAN を接続します。この場合、本商品を接続したパソコンは、無線アクセスポイントに接続された有線 LAN や他の無線 LAN 子機との通信が可能になります。

使用チャネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。チャネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。複数の無線 LAN を狭いエリアで同時使用する場合は、それぞれに異なる周波数を割り当てないと、無線干渉が発生して、通信速度が遅くなる場合があります。その場合、なるべく各チャネル同士の帯域が重ならないような使用を推奨します。

無線ネットワーク名 (SSID)

SSID は Service Set Identifier の略。無線通信する端末を論理的にグループ分けするための識別子です。単一の無線ネットワークに属する端末にはすべて同じネットワーク名 (SSID) を設定して使用します。

無線 LAN カード

インフラストラクチャモードに設定して無線アクセスポイントと対して使用したり、アドホックモードに設定して無線 LAN カードだけの無線 LAN を構築したりできます。主にインフラストラクチャモードで使用されることが多く、アドホックモードは小規模なネットワークで使用されます。

AES (Advanced Encryption Schema)

WPA-PSK (TKIP, AES) で使用する暗号化方式の一つ。AES は TKIP や WEP と比べて、より解読されにくいものになっています。

Super AG

IEEE802.11a(W52)/g 準拠の無線区間を高速化する独自技術です。Super AG を使用すると、IEEE802.11a(W52)/g 準拠の無線区間のスループットが向上する可能性があります。

TKIP (Temporal Key Integrity Protocol)

WPA-PSK (TKIP, AES) で使用する暗号化方式の一つ。TKIP は WEP でも使用されている RC4 という暗号化アルゴリズムを採用しています。

WEP (Wired Equivalent Privacy)

WEP を使用すると、無線通信中のデータを暗号化しデータの盗聴を防ぐことができます。WEP を使用していない場合は、データは暗号化されずに発信されるため、第三者が容易にその内容を知る恐れがあります。WEP では WEP キーに登録した内容と、WEP キーの番号が同じ端末間でデータを暗号化して通信を行うため、正しい WEP キーを知らないユーザーは、データを盗聴してもその意味を知ることではできません。WEP には、64bit、128bit、152bit と、WEP キーの bit 数により 3 種類のものがあり、WEP キーの bit 数が多いほど解読されにくいいため安全性が高くなっています。

WPA (Wi-Fi Protected Access)

暗号化方式の規格のひとつ。無線 LAN で従来から使用されていた WEP の脆弱性を補い、セキュリティの強化が図られています。

ユーザー認証機能の装備や暗号鍵の定期的な更新が主な特長です。なお、WPA の認証機能には、認証サーバを使用する方式と使用しない方式があります。認証サーバを使用しない方式を「WPA-PSK」と呼びます。

WPA-PSK (Wi-Fi Protected Access Pre-Shared Key)

WPA セキュリティ設定の認証方式の一つ。Pre-Shared Key を使って認証を行いますので、認証サーバを用意しなくても WPA セキュリティ設定を使用できます。WPA-PSK には AES や TKIP などの暗号化方式があります。

ここでは、TCP/IP ネットワークで使用する用語について説明します。

グローバル IP アドレス

インターネットに接続する端末は、必ず自分の居場所を特定するために、世界に同じものが二つない IP アドレスを設定しなければなりません。その IP アドレスをグローバル IP アドレスといいます。インターネットに接続するために必要なグローバル IP アドレスを使用するには、IP アドレスを管理している団体 (JPNIC 等) に申請し、そうした団体から使用の許可を得る必要があります。しかし通常の利用者はインターネット接続プロバイダ (ISP) と契約することで、ISP がそうした団体から取得したグローバル IP アドレスを使用してインターネットを利用します。

ゲートウェイアドレス (Gateway Address)

例えば同一ネットワーク上に存在しない端末や、別のネットワークにある端末に通信を行う場合、ゲートウェイと呼ばれる端末 (一般にルータ等がこれにあたる。) にデータを転送します。このときどのゲートウェイに送ってよいかわからない場合は、デフォルトゲートウェイという一番代表的な端末へデータを転送します。一般に各端末にデフォルトゲートウェイだけを設定しておけば、後はそのデフォルトゲートウェイが判断して適宜ルーティングを行ってくれます。

サブネットマスク (Subnet mask)

IP アドレスからサブネットのネットワークアドレスを求める場合に使用するマスク値のこと。サブネットマスクは、通常上位から連続してビットを立てた値を用います。



お知らせ

よく使用されるサブネットマスクの一例は、次のとおりです。

サブネットマスク	割り当て IP アドレス個数	接続できる端末台数 (最大)
255. 255. 255. 0	256 個	254 台
255. 255. 255. 240	16 個	14 台
255. 255. 255. 248	8 個	6 台

プライベート（ローカル）IP アドレス

インターネットに直接接続しない環境で使用する IP アドレスをプライベート（ローカル）IP アドレスといいます。プライベート IP アドレスを割り当てられた端末は直接インターネットに接続できないため、プライベート IP アドレスは、グローバル IP アドレスのように特定の団体の使用許可を得る必要がなく、誰でも自由に使用できます。ネットワーク内だけで端末を識別できればよく、グローバル IP アドレスを使用する必要がない環境でプライベート IP アドレスが使用されます。

またプライベート IP アドレスが割り当てられた端末でも、ルータの NAT 機能を使用すると間接的にインターネットにアクセスすることができます。



お知らせ

よく使用されるプライベート IP アドレスの一例は、次のとおりです。

- ・ 192.168.1.1～192.168.1.254
- ・ 192.168.0.1～192.168.0.254

ARP (Address Resolution Protocol)

IP アドレスをもとに MAC アドレスを知るためのプロトコル。

ARP (Address Resolution Protocol) テーブル

TCP/IP のネットワーク機能をもつパソコンやルータ等には、一度通信を行った相手の IP アドレスと MAC アドレスとの対応を記憶する ARP テーブルという機能があります。これにより、どの IP アドレスをもつ端末がどのような MAC アドレスをもっているかを記録でき、通信相手の IP アドレスを知ること、固有の MAC アドレスをもった端末に向けた通信ができます。

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol)

通信機器に対して、IP アドレスやサブネットマスク等のネットワーク設定を自動的に割り当てるための機能。

DHCP サーバ (DHCP Server)

DHCP 機能を持つサーバ。ルータ機能内蔵の ADSL モデムや、ルータの中には、DHCP サーバ機能をもつものがあります。逆に DHCP サーバからの IP アドレスの割り当てを受ける端末のことを DHCP クライアントといいます。

DNS (Domain Name Service) サーバアドレス

TCP/IP のホスト名から IP アドレスを検索するために用いられる、DNS サーバに割り当てられた IP アドレス。

IP アドレス

TCP/IP プロトコルを使用したネットワーク環境で、端末の場所を特定する住所のようなもの。32bit のアドレス情報で構成されており、インターネット等の TCP/IP ネットワークで通信する端末にはすべて IP アドレスを設定する必要があります。IP アドレスは、インターネットに接続するために必要なグローバル IP アドレスと、インターネットへの直接接続ができない IP アドレスであるプライベート（ローカル）IP アドレスの 2 種類があります。

IP アドレスのクラスについて

IP アドレスは、ネットワークの規模や使用目的によりクラス A～E に分けられます。通常クラス A～C までは使用され、クラス D、E は特殊な用途で使用されます。主にクラス A は大規模ネットワーク用、クラス B は中規模ネットワーク用、クラス C は小規模ネットワーク用に使用されます。クラス C では最大 254 台までの端末をネットワークに接続することができます。

MAC (Media Access Control) アドレス

Ethernet の LAN カード (NIC とも呼ばれる) や無線 LAN カード等のネットワークアダプタに割り当てられた 48bit のアドレス情報のこと。通常 12 桁の 16 進数であらわされます。この MAC アドレスには、世界中のネットワークアダプタごとに固有の値が設定されるようになっており、ネットワークアダプタの製造者が製造時に、世界でただ一つの MAC アドレスをカードに記録してから出荷します。前半の 24bit (16 進数 6 桁) が製造者固有の ID 番号で、後半の 24 ビット (16 進数 6 桁) が各カードの連番となります。Ethernet 等のネットワーク環境で、ネットワークアダプタを装着したハードウェアを特定するために使用され、物理アドレス、Ethernet アドレス等と呼ばれることもあります。

9-3 仕様一覧

項 目		仕 様
準拠規格	無線 LAN	IEEE802.11a(W52) (AR1B STD-T71) IEEE802.11g/IEEE802.11b (AR1B STD-T66)
	PC インタフェース	PC Card Standard(CardBus)・Type II 準拠
無線 LAN ポート	伝送方式	直交周波数分割多重 (OFDM) 方式 直接スペクトル拡散 (DS-SS) 方式
	伝送速度	IEEE802.11a(W52)/IEEE802.11g : 54/48/36/24/18/12/9/6Mbps (自動切換) IEEE802.11b : 11/5.5/2/1Mbps (自動切換)
	使用周波数帯	IEEE802.11a(W52) : 5.18, 5.20, 5.22, 5.24GHz IEEE802.11g/IEEE802.11b : 2412~2472MHz (ただし、中心周波数)
	チャンネル数	IEEE802.11a(W52) : 4 (36, 40, 44, 48ch) IEEE802.11g/IEEE802.11b : 13 (1~13ch)
	セキュリティ	WEP (64/128/152bit)、WPA-PSK (TKIP・AES)
	LED 表示	PWR (緑) 1 個、LINK (緑) 1 個
使用電源		DC3.3V 1.65W (最大) ※本商品は 3.3V 仕様 (CardBus) の PC カードスロット 用です。5V 仕様の PC カードスロットではお使いに なりません。
外形寸法		約 54mm (W) × 118mm (D) × 10mm (H) (最大部)
質 量		約 40g
動作環境条件		温度 : 0~40℃、湿度 : 5~85% (結露しないこと)
適合認定		特定無線設備技術基準適合認定、 端末機器技術基準適合認定
情報処理装置等電波障害自主 規制協議会 (VCCI)		クラス B 情報技術装置

9-4 お問い合わせ窓口

本商品について、不明な点などがございましたら、以下にお問い合わせください。

●本商品のお取り扱いに関するお問い合わせ

お問い合わせ先：☎0120-710444（9:00～21:00）

03-5667-7200

（携帯電話・PHS・050IP 電話用 通話料金がかかります。）

※年末年始 12 月 29 日～1 月 3 日は休業とさせていただきます。

●パソコンの接続・設定等に関するお問い合わせ

お問い合わせ先：☎0120-275466（24 時間 年中無休）

●故障に関するお問い合わせ

お問い合わせ先：☎0120-242751（24 時間 年中無休※）

※故障修理等の対応期間は平日 9:00～17:00 です。

※土・日・祝日および年始 1 月 1 日～1 月 3 日は休業とさせていただきます。

9-5 設定内容記入シート

全般

設定名		
	SSID1	
	SSID2	
	SSID3	

※SSID には、32 文字以内の半角英数記号を入力してください。

※通常は、SSID1 に入力してください。SSID2、SSID3 には何も入力しないでください。

暗号化設定/暗号化方式の設定

使用する暗号化方式	パスワード(ASCII 文字(半角英数記号)8 文字以上、63 文字以内)
WPA-PSK (TKIP, AES)	

使用する暗号化方式	使用する WEP キー	キー入力方式	パスワード
		16 進数*, ASCII 文字	
WEP	WEP キー1	64bit*, 128bit, 152bit	
	WEP キー2	64bit*, 128bit, 152bit	
	WEP キー3	64bit*, 128bit, 152bit	
	WEP キー4	64bit*, 128bit, 152bit	

*は初期設定値を示します。

使用する暗号化方式
使用しない *

詳細設定

省電力設定	
	無効
	有効(通常レベル) *
	有効(高レベル)

動作モード	
	インフラストラクチャ *
	アドホック

802.11b プリアンブル形式	
	ショート&ロング *
	ロングのみ

送信出力レベル		
	100%	*
	50%	
	25%	
	12%	
	6%	

通信可能な無線 LAN 規格	
	5GHz 54Mbps (IEEE802.11a (W52))
	2.4GHz 54Mbps (IEEE802.11g) *
	2.4GHz 11Mbps (IEEE802.11b) *
	Qos

アドホックモード使用時の無線 LAN 設定			
	5GHz 54Mbps (W52)	使用チャネル	指定できません
	2.4GHz 11Mbps	使用チャネル	自動 *, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13

*は初期設定値を示します。



お願い

- ・ アドホックモードでご使用の場合、「アドホックモード使用時の無線 LAN 設定」と「SSID1」設定を行ってください。
- 使用する暗号化方式は、WEP のみ対応しています。

この取扱説明書は、森林資源保護のため、再生紙を使用しています。

当社ホームページでは、各種商品の最新情報やバージョンアップサービスなどを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧頂くことを推奨します。

当社ホームページ： <http://www.east-plus.com/>

本商品について、不明な点などがございましたら、以下にお問い合わせください。

●本商品のお取り扱いに関するお問い合わせ

お問い合わせ先： ☎0120-710444 (9:00～21:00)

03-5667-7200

(携帯電話・PHS・050IP 電話用 通話料金がかかります。)

※年末年始 12 月 29 日～1 月 3 日は休業とさせていただきます。

●パソコンの接続・設定等に関するお問い合わせ

お問い合わせ先： ☎0120-275466 (24 時間 年中無休)

●故障に関するお問い合わせ

お問い合わせ先： ☎0120-242751 (24 時間 年中無休※)

※故障修理等の対応期間は平日 9:00～17:00 です。

※土・日・祝日および年始 1 月 1 日～1 月 3 日は休業とさせていただきます。

© 2006 NTT EAST



本 2816-1 (2006.8)

SC-32SE トリセ